



2010年12月3日

富士重工業 東レとカーボンルーフを共同開発 ～スバル車として初めての实用化～

富士重工業は東レ*と共同で、炭素繊維複合材を用いたルーフを開発し、「カーボンルーフ」という名称で、12月下旬に発表予定のSTIコンプリートカー「スバル インプレッサ WRX STI tS」に採用します。

*: 東レ株式会社(代表:日覺昭廣、東京都中央区)

炭素繊維複合材は、重量が一般的なスチールの約2割と非常に軽く、引張強度がスチールと同程度と、軽量、高強度であることから、車体構造材への採用により車両の性能を大きく向上させることが可能です。しかし、素材自体が非常に高価であることや、材質の異なる部材との結合部設計に高い技術やノウハウが必要となることから、自動車ボディへの採用は、F1などのレーシングカーや、ごく一部の車種に限られてきました。

そこで今回のカーボンルーフの開発では、当社航空宇宙カンパニーが持つ、炭素繊維複合材を用いた構造物の設計ノウハウを生かし、また、炭素繊維・同複合材料および同成型品等の製造技術に優れた東レとの共同開発を通じて、投資を抑える成形工法などを採用しました。さらに素材の特徴を活かした外装品質の確保、ベース車同等以上の衝突安全性と車体剛性を実現、製造ラインでの作業性を成立させ、スバル車として初めての实用化に到りました。

炭素繊維複合材採用によるルーフの軽量化は低重心化に最も効果があり、「スバル インプレッサ WRX STI tS」への採用は、車両の軽量化とともに、回頭性の良いハンドリングなど走行性能の向上が期待できます。

当社は創業以来、航空宇宙部門において数々の航空機の開発・製造に携わり、その中で炭素繊維複合材をはじめとする複合材技術を磨いてきました。現在開発が進められているボーイング787は、大型旅客機として初めて主要構造に全面的に炭素繊維複合材を使用していますが、当社は開発パートナー企業として、機体の最重要部分のひとつである、翼と胴体を結合する中央翼の開発、製造を担当しています。

なお、STIオフィシャルウェブサイト(<http://www.subaru-sti.co.jp/>)では、12月3日17時より「スバル インプレッサ WRX STI tS」専用コンテンツを公開し、お客様の興味と期待を高めます。

なお、商品等についてのお問い合わせは、最寄りの販売会社、またはSUBARUお客様センター「SUBARUコール」0120-052215までお願いいたします。